

日本物理学会 2022 年 秋季大会

領域 10 誘電体分科インフォーマルミーティング 議事録 (案)

日時：2022 年 9 月 12 日 (火) 19:00~20:00

場所：オンライン (参加人数 約 20 名)

進行：領域 10 誘電体分科運営委員 清水 荘雄 (NIMS)

書記：領域 10 誘電体分科運営委員 木村 耕治 (名工大)

1. 2022 年年次大会 領域 10 インフォーマルミーティングの報告

1. 発表の英語化について

領域の意見を尊重するというので、審議を終了したことが報告された。

参考)領域 10 の意見として「すべて英語化するのはハードルが高い」との意見。

2. 講演会のオンライン化について

講演会のオンライン化について活発な議論が行われた。主な意見として、年一回の現地開催(秋：年次大会)とオンライン開催(春：季節大会)が望ましいという意見で集約された。2023 年のスケジュールを踏襲するのが望ましいとの意見。

3. 代表・副代表・運営委員について

次々期運営委員の推薦状況を確認し、次々期運営委員 誘電体分科：量研機構 藤原 孝将先生 X 線の選出があり、承認されたことが報告された。

また 2022 年 10 月からの運営委員として、領域代表 田中真悟先生(産総研、格子欠陥・ナノ構造分科)、領域副代表 是枝肇先生(立命館大学、誘電体分科)、誘電体分科運営委員木村耕治先生(名工大)、藤原 孝将先生(量研機構)となることが確認された。

4. 講演概要の提出率について

本大会の講演概要率に関する報告があった。

5. ウクライナ情勢に関するステートメントについて

誘電体分科より提案のあったウクライナ情勢に関するステートメントについて、議論が交わされた。様々な意見が出ましたが、結果として理事会に諮っていただくことになった。結果として、実際に 4/12 にステートメントが出された。

6. 若手奨励賞・学生優秀賞について

積極的なエントリーを促すことが確認された。学生優秀発表賞については、どのようなものか、また受賞対象に関して理解が不足しているという意見が出た。また、他領域と比べた時

に審査対象が制限されているため、緩和について議論する必要があるとの意見が出た。

2. 次々期領域運営委員の選出について

次々期領域運営委員(2023年4月～2023年3月)として、押目 典宏先生(量子科学技術研究開発機構)が推薦され、承認された。

3. シンポジウムの開催状況について

近年の開催状況について説明があった。

5. 国際会議の準備状況について

1. 日韓強誘電体会議について

立命館大学の是枝先生より、2022年9月に行われる日韓強誘電体会議について、・プログラム編成・日程に関してと、現在からでも参加登録が可能であり、積極的に参加してほしいとのことについて説明があった。

2. International Meeting on Ferroelectricity について

東北大学の野田先生より、2022年の開催を予定していた“International Meeting on Ferroelectricity”について、2023年3月末にイスラエル・テルアビブにて開催されることについて報告があった。予稿の申し込み期限が10/20であるため、投稿について検討してほしいとの依頼がなされた。

6. 本大会の会場について

領域10の講演数・会場数について議論がなされた。必ずしも領域10の講演が他と比較して少ないわけではないが、過去の講演数等も勘案して会場などが決定されていることなどから、積極的に講演数を増やす努力が必要との意見が出た。